

『真光寺川 里親の会』通信

12月号 一通算第117号

2010年12月12日

今は昔・・・長老が語る真光寺川の今昔

一その2・魚について一

今回は神蔵喜代勝さんに小学生の頃の真光寺川の魚の話をききました。

鶴

川小学校に入ったのは昭和二十四年だったかな、もう五十年も昔のことになってしまった。あの頃はろくな遊びはなかったので子どもの楽しみと言えば先ず魚捕りだったね。

小学校は現在の「子どもセンターつるっ子」にあった。途中は大蔵谷戸でタンボが続いていた。沼田医院の前あたりに小さな堰がありタナゴがうようよいいた。登校時に近くの藪に釣り道具を隠しておくのさ。竿は篠竹、釣り針は2本で1円だった。帰りにうどん粉を練ったダンゴを餌にして釣る。いくらでも釣れた。近くの白州邸の裏辺りにも淀みがあり群れていたが、これは普段から台所の残飯を食い丸々太っていて餌なんか見向きもしない。ガキ大将がいて堰き止めて水を掻き出して大量捕獲さ。捕った獲物は食わなかったね、家の近くの水路に放しておいた。時には井戸に入れて置き、釣瓶で汲み上げられ風呂の中で泳いでいたなんてこともあった。

カ

ケ針も楽しかったな。大きな釣り針にみみずを付けて夜の内に仕掛けて置くのさ。朝白々あけた頃引き揚げに行く。ギバチが一杯掛っていた。ウナギはいなかった。4～5歳位先輩達はウナギが捕れたと言っていたな。何かウナギが住みずらい環境の変化があったのだろう。ギバチはひょうきんな面構えをしているが、トゲがありこれに刺されたら飛び上がるほど痛かった。当時はうようよいいた。大量に捕獲し、鉋で刻んで鶏の餌にしたものさ。そう言えば最近とはと見かけなくなったな。

ナ

マズもいたな。香山の下手にサクラ堰があり、6月頃になると鶴見川からタンボへ産卵に続々上がってくるんだ。3m位の板の先に3寸釘が植えてあるナマズブチで叩くのさ。ナマズもたまったものではない。唐揚げにすると結構旨かった。どういう訳か下堰を境界に、上流はギバチ、下流はナマズと棲み分けていた。ドジョウブチもあった。これは1、5m位の篠竹の先に10cm位の針が植えてあった。ドジョウは何処にでもいた。思い出すのは、夏の夜、今の平成橋の辺りのタンボに捕りに行った時のことだ。鼻をつままれてもわからない様なまっ暗闇、ただホタルは一杯飛んでいたな。松根油を燃やすとドジョウが寄ってくる、それをぶって捕るのさ。いくらでも捕れた。柳川やおみおつけにするとうまかった。ホトケドジョウはオバクと言っていた。溝に沢山いてザルですくって捕った。骨が柔らかく卵とじにして食べたものだ。

ヨ

シノボリはオトンキョウと呼んでいた。ひょっとこみtainな顔をしているからだろう。相手にせず捕ろうとしなかった。カマツカもいた。ドジッポと呼んでいて、焼いて食えば香ばしくてうまかった。保護色がよかったんだろうね、よく生き延びていると感心するよ。

オイカワは当時もいた。しかし今ほど多くはなかった。捕ってもすぐ死んでしまう。先ず食わなかったな。特にオスは骨が硬かった。



昔はうようよいいたというギバチ

一

番変わったと思うのはメダカとギバチがいなくなったことと、それにコイが多くなったことだろうね。あの頃はコイなんてめったにお目にかゝれなかった。せいぜい5寸位のやつを見つけようものなら、もう夢中で追っかけ廻したものだ。今、でっかいやつが群をなして悠々と泳いでいるのを見ると、今昔の感に堪えないね。

(文：山口拓郎)

野津田・丘の上まつりの活動報告

去る11月3日快晴に恵まれた秋空の下、恒例の「野津田丘の上まつり」が開催され、今回も「真光

寺川里親の会」として“数珠球による昔遊び”のブースを店開きしました。

遅

刻気味のおばば(?) コンビの私達(中村、山岡)大慌てで、例年同様の場所に会の幟を立て、シートを拡げ、作品見本のネックレス・ブレスレット・お手玉を飾りつけ、開会の10時に何とか滑り込みセーフ、最初のうちはさっぱりお客が来なかったものの、暫くすると他店を回ってきたちびっ子達が続々襲来、交代でトイレに立つのが精一杯という賑わいとなりました。

低学年の小学生達はブレスレットに、高学年の子は根気のいるネックレスに挑戦し、完成した作品を身につけて嬉々としている彼らを見て、教える私もニコニコ、お手玉は中村さんが担当、端切れで作った袋に数珠玉を入れ、口を縫って絞って出来上がり、上手く仕上がるたびに歓声が上がります。上手い子も不器用な子もそれぞれ、教わりながら黙々と作業に打ち込む姿を見て、数珠球集めの苦労もスッカリ消し飛んでしまった二人でした。

この子達が将来、今日の経験を思い出し、自然に対し優しい気持ちになり、自分の子供達に数珠球遊びの楽しさを伝えてくれたら、どんなに素敵な事だろうと願いつつ、小春日和の名残の夕日を浴びて雑木林の坂を下りました。(文：山岡 雪子)



人気のお手玉やブレスレットづくり

乗馬クラブ「クレイン東京」で打合せ一川の水質が改善するか

11月1日クレイン東京側と真光寺・広袴両町内会・清流にする会、市の下水道部・環境保全課、岩瀬市議員が集い、クレイン側が7月～9月に実施した馬場の砂の入替、駐車場の舗装化の状況と実施後の水質検査の結果を聞きました。その結果BOD(生物化学的酸素要求量)は基準内に、SS(浮遊物質)は基準をわずかに上回るところまで大きく改善し、出席者からも川がきれいになった、透明度が上がったとの感想が述べられた。今後はクレイン側が3ヶ月毎に水質検査を行う、少なくとも年1度は馬場の砂を入れ替えることを約束、これらの取組を見守ることとなった。真光寺川の水質の改善を図るためにその推移を見守っていきます。(文：黒田健夫)

《川の風景》 時々真光寺川で釣りをする人を見かける。釣り人に何うと、「下堰ではオイカワを50匹ほど釣ってリリースした、神明橋付近でもモロコや12～3センチのモツゴ(クチボソ)も釣れている」という。モツゴの情報は久しぶり。五條池では沼エビが育っている。昨年町田リサイクルセンターの池から移植したものが繁殖したようだ。時々エビを取っている人を見かけるが、乱獲はさけ、みんなで見守りたい。広袴調整池では11月半ば頃から第2陣のオカヨシガモが渡ってきました。薬師池にはスズガモ、ホシハジロ、キンクロハジロのカモが群れていますが、こちらにはまだきていません。

『めだかポスト』

11月は能ヶ谷の神蔵喜代勝様からのご寄付、ポストと一木会からの寄付を合計し3,379円でした。里親の会の活動に対して皆様のご厚志に感謝いたします。

11月の清掃報告

総勢11名が清掃に参加。先月の例会は雨で中止となったせいかゴミも多く、合計15袋のゴミと自転車を3台引き上げました。自転車のうち1台は無事所有者のもとに返すことができ、ホッとしました。しかしその後また自転車が捨てられ、11月29日にも2台引き上げました。

1月9日(日) 柿生の片平川を散策します。ぜひご参加下さい

1月の例会は新年会を兼ね、隣町の片平川の散策を予定しています。片平川は栗平に発し柿生で麻生川にそそぐ全長約2.7キロの川、周囲は大規模な宅地化が進行中で以前の風景が一変しています。川沿いをのんびり散策して桐光学園近くの源流を確認、近くの栗木御嶽(みたけ)神社を参拝し、帰路、湯快爽快くりひら温泉(入浴料1050円、タオル持参)で一風呂浴びて昼食を兼ね新年会を予定しています。帰路は歩いてもいいし、柿生行きバスや鶴川駅行きの送迎バスも利用できます。一般の方々のご参加を歓迎いたします。一緒に散策しませんか。

集合：柿生駅南口出口10時0分(時間厳守)

解散：午後2時ごろ温泉で解散

『<http://www.shinkojigawa.com/>』

ホームページへご意見感想をお寄せ下さい

『真光寺川 里親の会』会長：山口 拓郎 町田市鶴川 1-10-13 TEL/Fax 042-735-0382

事務局：町田市広袴 3-24-11 山本隆治 TEL/Fax 042-736-0214 e-mail ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp